

§1 現状と課題

○ 老朽化・システム障害について

『道路情報広場NAGANO』は、道路情報(カメラ画像、気温、積雪量、路面状態など)を広く道路利用者へ発信するため、各建設事務所の情報を集約しホームページで公開しています。

現行のシステムは、平成22年度に構築して以降、15年間稼働しているが、機器の老朽化が進行して、頻りに原因不明なシステム障害が発生しています。

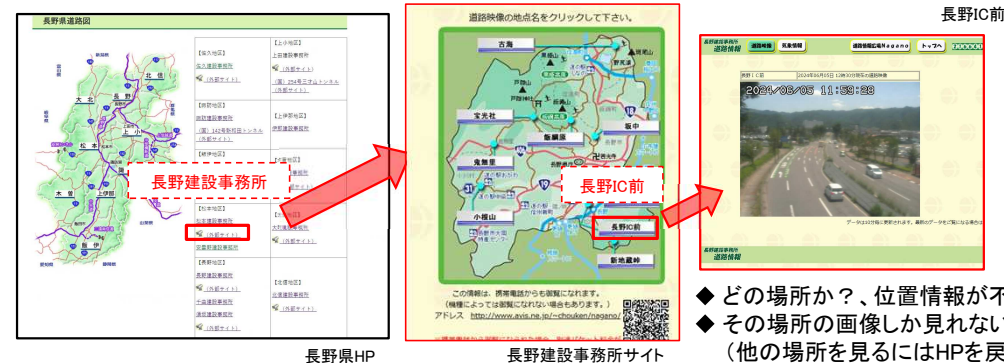


現在のシステム(PCのOSはWindows XP)

○ 操作性・閲覧性の向上について

現行のホームページは事務所ごとに別々のサイトとして構成されており、他事務所の情報を閲覧するためには、個別のサイトへアクセスする必要があります。

また、GIS上で位置情報を示す機能のないことから、操作性に乏しく、利用者にとって使いにくい状況となっています。



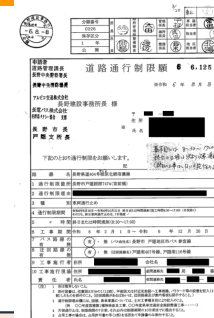
- ◆ どの場所か?、位置情報が不明確
- ◆ その場所の画像しか見れない (他の場所を見るにはHPを戻る)

§2 通行規制に関する事務手続きについて

○ 紙申請による道路通行制限願

道路工事等により予定された道路の規制は、工事業者からの『道路通行制限願』の提出により手続きを行っている。令和6年度、各建設事務所での受付件数は、約2,300件にのぼり、紙の申請書を建設事務所の窓口で手交する方法で行っています。

また、関係機関(警察・消防、バス会社など)への情報提供は、申請書の複写を郵送しており、職員へ大きな負担を強いています。



【課題】

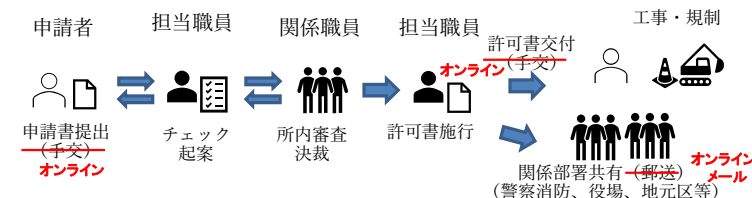
○ 紙申請書による窓口での手続き

修正が必要な場合や許可書の発行の際は、申請者に再度来庁を依頼せざるを得ない申請書のやり取りの『場所』と『時間』に限定され、利便性が低い

○ 職員負担

申請内容の共有は、申請書の複写を郵送するなど、手作業での対応が中心
急な申請の場合はFAX送信で対応する必要があり、申請件数が多い場合に負担が大きい
申請書が紙のため、資料の保管や台帳管理のための入力作業が大変

申請書の作成⇒提出⇒審査⇒決裁⇒許可書の交付⇒関係機関共有⇒保管・管理までの、通行制限願の一連プロセスをシームレスで行える電子申請システムの導入が必要である



§3 道路情報広場Naganoのリニューアル

道路情報のわかりやすい提供と、通行規制に関する手続きから情報公開まで、一連で行える機能を備えたシステム(WEBサイト)を構築します。

<主な機能>

- あらゆる道路の情報(通行規制、カメラ、気象観測情報など)をGIS上で一元的に表示させます
- 通行止めに必要な手続きのオンライン化します、職員の負担軽減や申請者の利便性を向上させます
- 外部から災害や気象情報を収集したり、収集した情報を他のシステム(インフラデータプラットフォーム)と連携させます

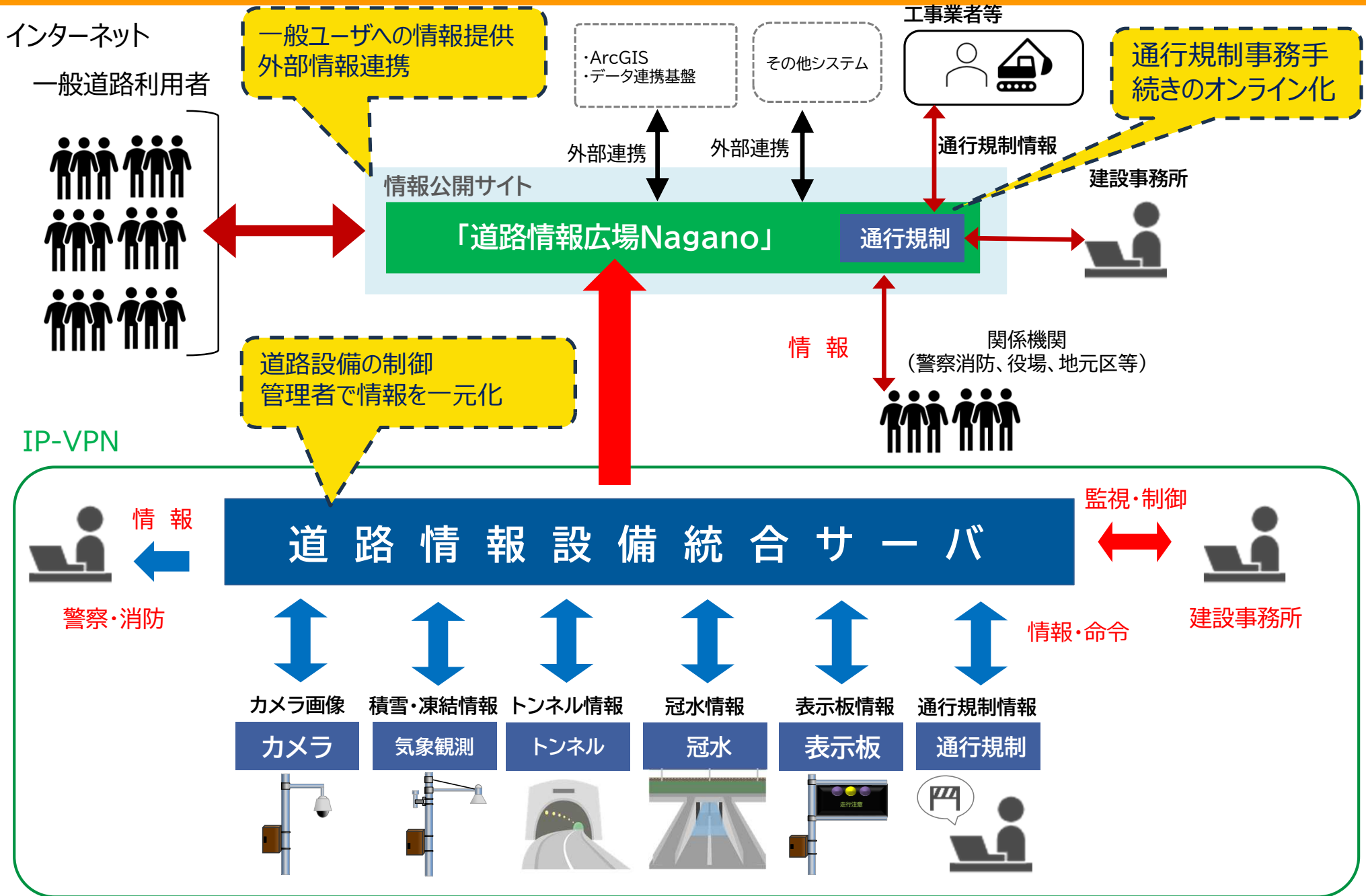
【想定される効果】

- ◆ 一元管理された道路情報がわかりやすく提供することができます
- ◆ 通行規制に関する申請と公開をオンライン化することで、職員の負担軽減や申請者の利便性が向上します
- ◆ 外部連携機能やオープンデータ化により、情報共有体制が強化されます



- ◆ GIS上に位置情報表示される
- ◆ カメラ画像以外にも、通行規制、気温などの情報の取得ができる

他自治体の同様のサービスと比較することで、操作性・閲覧性が劣ることが明確である。



IP (Internet Protocol) – VPN (Virtual Private Network)

: 通信事業者が独自に所有する閉域ネットワークの中に作られた仮想的な専用回線 (暗号化された通信経路でインターネットVPNに比べて安全性が高い)